

Kyoudo PRIDE

埼玉協同病院



♥ 医療生協さいたま生活協同組合

埼玉協同病院

川口市木曽呂1317 TEL.048-296-5822 (直通)

Mail : skymet@mcp-saitama.or.jp

日本医療機能評価機構認定病院

卒後臨床研修評価機構認定病院

SKYMET

検索



◆ これからの医療のカたちをつくる。

これからの 医療のカタチを つくる。

病気の原因は見えているか？
病気を治せば終わりなのか？
医師は、患者を待っているだけでいいのか？

超高齢社会のなかで、
これからの医師に必要とされる力は
患者を総合的に診る力。
住民主体のヘルスプロモーションを、
専門家としてサポートできる力。

埼玉協同病院は、そんな医師を育てたい。
そのための環境が、ここにはある。
これからの医療に必要とされる医師に。
そして、これからの医療のカタチをつくる医師に。
ともに成長しよう。



埼玉協同病院の研修、4つの特徴

1 **患者を総合的に診る力** P.4
患者の社会的背景を捉える。

2 **主体的研修** P.6
研修をつくるのは研修医自身。

3 **医師を育てる風土** P.8
診療科、職種を超え、医師を育てる。

4 **地域の中で育つ** P.10
地域と関わり、健康なまちをつくる。

Kyoudo PRIDE

健康問題、社会的背景、医療要求は、
患者さん一人ひとり異なります。患
者さんを全人的に診る、そんな信念
をユニフォームに刻んでいます。



初期研修のpoint

Q&A

病院全体の
雰囲気

甲斐安祥
医師



研修医への教育体制の手厚さです。ローテーションで回っている科の指導医の先生方はもちろん、他科の先生方もコンサルテーションに応じてくれます。時には他職種の方々や他病院の先生が様々なレクチャーを行って下さり、診療能力の向上に繋がっていると実感しています。

私が埼玉協同病院を選んだ理由

病院見学時に院内で働かれるスタッフの人柄、研修医が真摯に患者さんに向き合っているところに惹かれました。指導医、先輩、同期、スタッフの方々はみなさん優しく、真面目な方々です。研修医に沢山の学びと経験をさせてくれる病院だと思います。

教育体制の
手厚さ

揚野佳太
医師



Q 経験できる手技は？

地域の第一線の医療機関であり、Common Diseaseが多く集まります。主体性を重んじる研修方針のもと、基本的診療能力を付けるために必要な手技がひと通り経験できます。



Q オフの過ごし方は？

ショッピングなどは都心に行くことが多いです。アウトドアも秋父で気軽にできます。もちろんインドア派な人にとっても住みやすいところです。

Q 研修医の受け持ち患者数は？

1年目の最初は2～3人の受持ちからスタート。慣れてくると徐々に人数も増えていきます。

Q 研修中の勤務時間は？

8:30～17:00が平日の勤務時間です。研修科や人によっては、早めに回診をしたり、勉強や処置のために残ったりすることもあります。

Q 職場の雰囲気は？

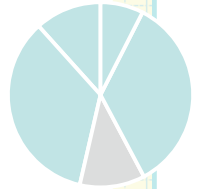
総合医局なので同期から指導医まで様々な医師と担当患者の相談事など気軽に話すことができます。病院全体で職員を育てる風土があり、看護師をはじめとする多職種が日常診療の中で関わってくれます。

よくある質問



Q 1日のスケジュールは？

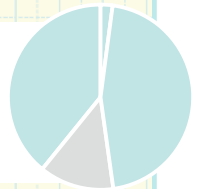
内科	8:20~9:00	朝の申し送り カンファレンス
	9:00~12:00	回診・オーダー(検査・薬処方)
	13:00~16:00	病棟カンファ(1回/週)、患者・家族面談など
	16:00~17:00	病棟業務(カルテ・退院サマリー記載)



産婦人科	8:20~8:45	朝の申し送り カンファレンス
	9:00~12:00	外来問診、外来診察見学
	13:00~16:00	病棟業務 エコー練習など
	16:00~17:00	病棟カンファ(他職種・小児科合同) ※手術日(火・金)…緊急手術があれば手術優先



診療所	8:20~8:30	朝会
	8:30~12:00	外来診療・外来診療振り返り
	13:00~17:00	訪問診療



2年間の

ローテーション例

研修医全員が基本的に内科からスタート。最初の4か月間、内科で総合的な研修を行い、基本的な診療スタイルを身に付けます。また、同じ法人内の病院・診療所にて2か月間の地域医療研修を行うことも特徴です。

1年目

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
POINT 内科(総合内科)						救急	麻酔	外科	産婦		

2年目

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科 (総合内科)		POINT 地域医療	小児	精神	選択 内科、救急科、地域医療、外科、小児科、産婦人科、精神科、整形外科、皮膚科、麻酔科						



研修の特徴



必修項目・病院が定める必修科目

内科(32週)、救急(救急12週:麻酔科での4週間の研修を加えて合計12週の研修)、外科(8週)、地域医療(8週)、小児科(8週)、産婦人科(4週)、精神科(4週)、一般外来(4週・並行研修)

選択(20週)

内科、救急科、地域医療、外科、小児科、産婦人科、精神科、整形外科、皮膚科、麻酔科

患者を 総合的に診る力

1

特徴の一つめは、患者を総合的に診る力がつくこと。地域医療の最前線である二次救急、社会的・経済的な困難を抱えている患者さんも少なくありません。埼玉協同病院は、総合力をつけるのに最適な環境です。



地域医療を支える 二次救急病院

埼玉協同病院は二次救急指定病院。地域の基幹病院として、年間 4200 台以上の救急車を受け入れています。「転院搬送するかどうか」の検討には研修医も加わり、判断力を培っていきます。



ジェネラリストの 基礎を培う

埼玉協同病院の研修は、基本的には総合内科病棟から研修を開始。基本的な診療スタイルを最初の 4 か月で身に付けます。ジェネラリストの基礎の上に専門分野を構築していきます。



医師としての 幅広い技量を 高める

埼玉は人口に比して医療機関が少ないため、症例はバラエティに富んでいます。都内であれば大学病院でしか経験できない特殊な症例を診ることもあります。専門で区切るのではなく横断的に診ることで、医師としての幅広い技量を高めます。

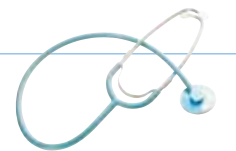


予防から 人生の終わりまで

埼玉協同病院は、患者さんに身近な医療機関として、病気になる前の保健予防から終末期まで一貫して取り組んでいます。退院後の生活まで考えて治療方法を判断したり、生活環境の整備にスタッフと連携して取り組みます。

「いのちの平等」
って？

医療にかかりたくともかかれ
ない人々がいます。「仕事
が無くなった」「年金だけ
では生活するのも大変」「海外
から日本に来たが、就労で
きない状況になった」そん
な人々が医療を受けること
ができずに身体の具合を悪
くしています。もし、あな
たにどんな人々にも差別な
く平等に必要な医療がうけ
られるようにしたいと思う
気持ちがあるならば、ぜひ
一度当院にお越しください。
スタッフが一丸となってあ
なたの気持ちに応えます。



主体的研修



自ら研修を振り返る レジデント・カンファレンス

2週間に1度、初期研修医だけでレジデント・カンファレンスを開いています。お互いの研修状況を共有したり、勉強会を開催したりと開催内容は様々です。そこで出された研修への要望は初期研修委員会で検討されます。



特徴の二つめは、主体的な研修。オーダーメイドで柔軟な研修は、自らの意志で学びを広げることができます。主体的な経験を通じて、「主治医」として患者さんに関わるプロフェッショナルリズムを伸ばします。



学会発表で 学術的視点を

研修中には学会発表も経験してもらいます。指導医が発表内容について、研修担当事務が発表についてサポートします。学術研究的な視点を持ちながら研修を進めることができます。



研修医の自主性を 重んじる

重視しているのは、現場で動きながら考え、学ぶ、オンザジョブトレーニング。ERでのファーストタッチは研修医。また、どの科をローテーションしている時でも当直に入ります。未熟ながらも自ら考え答えを出すことで、問題解決能力を身に付けます。



外部講師を招いた 多彩な学び

各分野のエキスパートを外部より招き、研修医向け学習企画を定期的で開催しています。日常の臨床とは異なる視点での学びを得られ、より広い視野を持つことができる良い機会となっています。

当直に入る までの 流れ

入職後4月から7月までは当直に入りません。1年目の7月にまずは日中のER研修に入ります。指導医の下で、救急車の受入れから初期治療、入院判断などを見ながら、ERの基本的な流れを覚えます。8月から夕方17時から夜21時までの当直見学に入ります。日中とは違い救急車の対応と共にウォークイン患者の対応なども行う当直について学びます。当直見学後は副当直として1年目の3月頃まで当直研修として入ります。2年目の4月以降に指導医が当直判定を行い順次独り立ちしていきます。

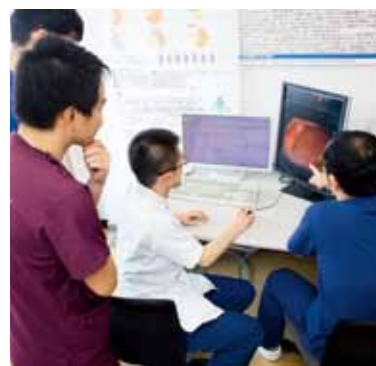


医師を育てる風土



診療科を超えた風通しのよさ

医局は全診療科が揃う総合医局で、診療科の垣根なくコンサルテーションがしやすい雰囲気です。研修担当の事務スタッフを配置し、スムーズな研修をサポートしています。



互いに学び合い、育ち合う研修

屋根瓦式の指導法で、1年目は2年目から、2年目は後期研修医からと、身近な先輩が指導することで、教える側も成長します。レジデント・カンファレンスで出された改善点を指導医自身も修正するなど、互いに育ち合うことを大切にしています。



特徴の三つめは、医師を育てる風土。開院以来自前で医師を養成してきた埼玉協同病院では、医師を育てることは日常のこと。コメディカルや組合員も関わって、病院全体で医師を育てる気風があります。



メディカルスタッフからのメッセージ

地域に根ざし、地域に支えられ、地域に寄り添う、より利用者のニーズに応えることができ、地域から信頼される病院を目指し、医療を支える全職種が協働し、育ち合うことを大切にしています。多くのメディカルスタッフが様々な視点で育成をサポートしています。専門的な知識や技術はもちろんですが、病気だけではなく、こうなる背景には何があったのか、健康の社会的決定要因(SDH)の視点を大切に、その人を丸っとみることができ、対応できる力を一緒に培っていくことができたらと考えています。



さまざまな働き方を応援

子育て支援が今ほど重視されていない頃から、体調や家庭の事情をカバーし合ってきました。女性も男性も子育てや介護などと両立し、働き続けられるよう、院内保育や病児保育の整備、勤務体系の変更など全力でサポートしています。



多職種協働によるチーム医療

研修では、看護や事務など他の職種の仕事を体験。多職種参加型のカンファレンスで多彩なスタッフと関わり、チーム医療のリーダーシップを学びます。特に、社会的な問題を抱える方の困難症例にはMSW(※)と連携して向き合い、医療観や患者観、医師像を育みます。

※ MSW…メディカル・ソーシャルワーカー

地域の中で育つ



地域へ出る・地域から学ぶ

医療生協さいたまは、全県に3つの病院、8つの診療所、介護施設等を持っており、医師の活躍の場は多岐にわたります。2カ月間の地域医療研修では、在宅医療・慢性疾患・健診等を経験しながら、地域の特性に応じた、患者さんの生活により密着した医療を学びます。



特徴の四つめは、地域の中で育つこと。埼玉協同病院の医師は、患者さんのお宅を訪問したり、街頭で健康チェックに取り組んだり。患者さんの生活に近いところで患者さんに接する、これは貴重な学びです。

健康づくり活動から地域の要求を知る

病気をしたとき、体の具合が悪くなったときにだけ医療にかかるわけではなく、健康であり続けるための取り組みを積極的に行っています。



患者さんの普段の生活を知ること

患者さんのご自宅訪問、駅前やショッピングモールなどで健康相談を行い、地域に出ることで患者さん・地域住民の生活を学びます。患者さんや地域が抱える問題を知ること、患者さんが抱える問題を生活や労働から捉え診療に生かします。



組合員が、自分たちの医師を育てる

「自分たちを診てくれる医師を自分たちで育てよう」医療生協組合員はそんな思いを持っています。組合員が模擬患者（SP）として臨床実技模擬試験に参加し、患者視点・家族視点でフィードバック。また、研修管理委員会へは外部委員として組合員の代表が参加します。



組合員さん との かかわり

医療生協さいたまは農民や労働者がすぐにかかることができる医療機関が無かった戦後間もない頃、地域住民が主体となってお金を自分たちで出し合い医師・看護師を呼び、診療所を建てたことから始まりました。現在でも同じように地域住民が組合員となり病院に出資し、病院のためにお金を出し、患者として利用し、より利用しやすい病院をめざして運営にも参加しています。組合員さんは自分たちの病院だからこそ、そこで働く医師には「自分たち(患者)の立場に立つこと」を願い、親切で良い医療と健康で笑顔あるまちを病院とともにつくりつづけています。



医療生協さいたま
マスコットキャラクター
ココロン

医師人生にとって初めの2年間でどのように過ごすかはとても大切です。知識や技能の習得は勿論ですが、医師として相応しい基本的な態度や姿勢を学び身に付けることが重要だと私たちは考えています。単に病気を診るのではなく人間を診るということ、社会的背景にしっかり対応すること、常に学習を怠らず謙虚に学び続けることなど、医師人生の土台をこの2年間で創っていただきます。当院は1978年の開院以来、一貫して地域住民の医療ニーズに応える医療を行いながら、全職種と地域住民の協力で地域で役に立つ臨床医を育ててまいりました。熱いハートを持った指導医集団と良きパートナーを育てることに心血を注げるメディカルスタッフ、そしてその活動を地域から支える住民組織が皆さんのお越しを心待ちにしております。



埼玉協同病院
研修管理委員長
病院長 増田 剛

研修責任者

プログラム責任者



埼玉協同病院
プログラム責任者
医局長 忍 哲也

私たちの研修の特徴の一つは「研修医の主体性を重んじること」です。指導医の指示を待っているだけではよい研修はできません。研修医の習熟度や個性によって、もちろんローテートする診療科の内容によっても異なりますが、できるだけ自分の頭で考え実践してもらいたいと思っています。一方で患者様・研修医自身の安全も担保できるような環境(例えば段階的に当直を開始する仕組みなど)を持っています。

もう一つの特徴は「メディカルスタッフとの協働」です。研修医からの相談に喜んで応えてくれる、頼もしいスタッフがたくさんいます。私たちの病院にはそれぞれを専門職種として尊重し合う文化があります。医療を支えているのは全職種であるということが実感できると思います。

初期の2年間は医師としての生き方や学び方を、体験を通して身につける大切な時期です。成長するためには自分自身の覚悟が最も大切ですが、医師は一人では成長できません。先輩医師、スタッフ、そして患者様から多くの事を学んでください。私たちは学びのチャンスがたくさん用意して、皆さんをお待ちしています。

◆ 主体的な研修で良い体験・良い学びを

研修理念・方針

卒後臨床研修の理念

1. 患者、地域住民の医療要求から出発し、第一線の医療機関に求められる総合的な臨床能力の獲得を目指します。
2. 人権を尊重し、無差別・平等の医療を実践するために必要な人権意識、倫理観を養います。
3. 医療チームの一員として、患者・家族・職員・地域住民と協同し、共に学びながら成長します。
4. 研修医みずからが研修プログラムの改善や医療活動の向上に主体的に取り組み、生涯学び続ける姿勢を身につけます。

卒後臨床研修方針

1. 急性期医療から介護まで、第一線の医療機関に求められる医療活動を幅広く経験します。入院医療、救急医療を中心に研修しながらも、医療生協の県内のネットワークを活用しながら、外来診療、診療所活動、在宅医療、健診なども重視します。
2. 患者から学ぶ姿勢を貫き、患者の価値観、生活、家族背景、労働環境など(健康の社会的決定要因)にも目を向けながら総合的に把握し、医療方針に反映させます。そのための多職種参加のカンファレンスを重視します。
3. 指導医・上級医とチームを組み指導助言を受けながらも、担当医として責任を持ち、最後まで患者に寄り添う姿勢を大切にします。そのためのカンファレンス、振り返りを充実させます。
4. ヘルスプロモーションの視点から地域活動にも積極的に参加し、患者・地域住民の声に耳を傾けながら医療要求を把握し、暮らしやすい街づくりや医療制度・社会保障制度のあり方についても考えます。
5. 研修管理委員会は地域住民も含めて多職種で構成し全病院的に臨床研修に取り組みます。研修評価は多職種で定期的に行い、研修医にフィードバックし、研修指導や研修プログラムに反映させます。
6. 研修医会活動を重視し、臨床研修の社会的意義を踏まえた上で、自ら学ぶとともに、医療活動・研修プログラム改善に向けての議論や提言を行います。
7. 医学・医学教育の最新の成果を取り入れながら、研修上の安全性にも配慮し、研修目標の達成と研修医の成長が図れるよう研修環境を整備します。

JCEP 認定病院

埼玉協同病院はJCEP(NPO法人卒後臨床研修評価機構)に認定された病院です。2021年4月現在、全国の臨床研修病院(基幹型)は1,037施設ありますが、そのうち289施設がJCEPの認定を受けています。JCEP認定は臨床研修病院の「品質保証書」です。JCEPの訪問調査では「病院全体として温かく研修医を育てています。どの職域においても、研修医がどのように研修しているかについて把握し、同じ目線で研修医に対して指導していることがわかります。」という講評がありました。

専門研修、
その先へ

埼玉協同病院の研修は、3年目以降どの科に進んでも通じる連続性のあるスーパーロー
テート研修です。身に付けた総合力を基礎に、幅広い進路が開けています。

専門研修プログラム

基幹型プログラム														連携プログラム		
内科	内科標準コース①													領 域	基幹施設	
	1年目		2年目				3年目							外科	埼玉医科大学総合医療センター	
	(基) 埼玉協同病院	(連) 埼玉協同病院 (特) 熊谷生協病院	(連) 埼玉西協同病院 (特) 熊谷生協病院	(基) 埼玉協同病院												
内科全般													小児科	川口市立医療センター 埼玉医科大学総合医療センター		
総合診療	埼玉協同病院プログラム													産婦人科	自治医科大学附属 さいたま医療センター 東京女子医科大学東医療センター	
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
	専攻医 1年目	埼玉協同病院 or 埼玉西協同病院 or 熊谷生協病院														
	内 科															
	専攻医 2年目	埼玉協同病院 or 埼玉西協同病院 or 熊谷生協病院					埼玉協同病院			埼玉協同病院 or 熊谷生協病院						
	総合診療専門研修Ⅱ					救急科			小児科							
	専攻医 3年目	秩父生協病院 or さいわい診療所 or 大井協同診療所 or おおみや診療所 or 明戸大塚医院														
総合診療専門研修Ⅰ													皮膚科	帝京大学附属病院		
麻酔科	研修実施計画例 年間ローテーション表													病理	東京医科歯科大学病院 自治医科大学附属 さいたま医療センター	
	A	1年目	2年目			3年目				4年目						
		埼玉協同病院	埼玉協同病院 ペインクリニック	東京女子医科大学病院 (特殊麻酔、集中治療)			東京女子医科大学病院 (特殊麻酔、集中治療)									

Subspecialty領域プログラム

・消化器内科 ・糖尿病内科 ・乳腺外科

キャリア選択例

2018年4月～ 埼玉医大総合医療センター連携プログラム
埼玉協同病院外科研修
2020年4月～ 埼玉医科大学国際医療センター外科研修
2021年3月 外科研修修了
2021年4月～ 埼玉協同病院外科勤務

難しい事情を抱える患者さんは、ほかの病院ではなかなか診てもらえません。でも、どこかの病院で診なきゃいけない。埼玉協同病院は、そういう病院です。「治療じゃなくて、医療をしたい」医学生の方は、ぜひ来てください



外科 松原 浩太

2018年4月～ 埼玉協同病院内科研修
2019年10月～ 埼玉西協同病院内科研修
2020年10月～ 埼玉協同病院内科研修
2021年3月 内科専門研修修了
2021年4月～ 埼玉西協同病院内科勤務

指導医の先生方・メディカルスタッフの人の柄の良さ・温かさがある病院です。“社会的弱者に医療を届ける最後の砦”としての誇りをもって医師としてのやりがいや楽しさを伝えたいです。



内科 松村 綾

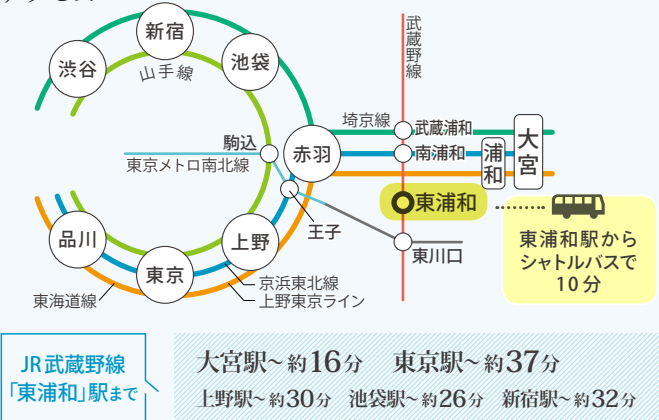
病院概要



病 床 数 一般病床399床（ハイケアユニット4床、緩和ケア24床、回復期リハビリテーション50床を含む）

標 榜 科 内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、緩和ケア内科、神経内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、リウマチ科、臨床検査科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内科、救急科、泌尿器科(人工透析)、緩和ケア外科

アクセス



民医連とは

全日本民主医療機関連合会の略で、全国1800をこえる病院、診療所、介護事業所などが加盟する医療・福祉のネットワークです。連携して研修プログラムを組んだり、全国の研修医とともに学ぶ臨床研修交流会や学術・運動交流集会があります。当院はこの民医連に加盟しており、「いのちの平等」を理念とし、医療・福祉制度を改善するための運動に取り組んでいます。

医療生協さいたまのネットワーク

医療生協さいたまには、センター病院を中心に3つの地域拠点病院、8つの診療所、3つの歯科診療所、2つの老人保健施設、19の介護事業施設(在宅介護支援センター・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・介護付有料老人ホーム)があり、医療・介護・福祉のネットワークを拡げています。

新病院建設について

住み慣れた地域で安心して暮らしたいという地域の方の要望にこたえて、現在、埼玉協同病院のリニューアルと、隣接地に第二病院建設の計画が進行中です。埼玉協同病院は救急機能を強化、第二病院は地域包括ケア病棟を有した「在宅療養支援病院」となる予定です。

